

# 産地戦略

実施期間 令和8～12年度

実施主体 出雲市環境にやさしい農業研究会  
都道府県 島根県  
対象地域 出雲市（出雲・斐川地区）  
対象品目 水稲



## 新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

## 目指す姿

本地域では、耕地面積に占める有機農業の割合が0.4%であり、みどりの食料システム戦略で目標として定められている25%に程遠い状況である。加えて、本地域はトキの放鳥候補地に選定されていることから、餌場確保につながる水田の環境づくりや水田管理体系の確立も求められている。これらの状況を鑑みて、耕地面積に対して約50%の作付面積を占める水稲生産において環境にやさしい農業を如何に進めていくかが大きな課題であり、取り組みやすく普及が可能な技術体系の導入が必要と考えている。

以上のことから、水稲において、有機質肥料及び自動抑草ロボット、水田管理システムを活用し、化学肥料及び除草剤不使用並びに水管理における省力化が見込まれる生産技術体系の検証を行い、本地域の主力農産物である水稲生産において、グリーンな栽培体系を確立し普及を目指す。

## 現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
代かき 田植え 中干し 等	●	● ぼ場準備 ● 代かき ● 田植え		● 中干し			● 収穫						
除草 水管理		●	● 除草剤散布				● 水管理 (ぼ場巡回による水管理)						

## グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名													
技術名													

栽培暦に記載のとおり。

- ・有機質肥料を施肥し、除草対策としては自動抑草ロボットを活用する。
- ・水田管理システムを活用して水位管理、給水作業を行う。

## グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状 (R7)	目標 (R12)	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	4043	▶ 4043	
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	0.87	▶ 30	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	0.87	▶ 30	
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	0.87	▶ 30	

## 環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

### 〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	栽培暦に基づいて適正量の化学肥料を施肥	有機質肥料の利用	化学肥料使用量の低減
環境	除草剤散布	自動抑草ロボットの活用	除草剤（化学農薬）の使用量低減
省力	見回りによる水位管理、手作業による給水作業	水田管理システムの活用	作業時間の低減

### 〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学肥料使用量（％）	<b>100</b>	▶ <b>0</b>	化学肥料を使用せず有機質肥料を活用する
環境	除草剤(化学農薬)使用量（％）	<b>100</b>	▶ <b>0</b>	除草剤を使用せず自動抑草ロボットを活用する
省力	水位管理、手作業による給水作業時間低減率（％）	<b>—</b>	▶ <b>50</b>	水位センサーと自動給水ゲートを組み合わせた省力化技術を活用する

\* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

\* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

## グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

島根県東部農林水産振興センター出雲事務所、島根県農業技術センター、出雲市、J Aしまね出雲地区・斐川地区が中心となり、農業者と連携しながら普及していく。具体的には、実証農家をモデルほ場として現地見学会を開催するとともに、啓発看板の設置や農業者向けに農業者が集まる会議の説明資料に掲載するなどを周知を図る。

また、導入に当たっては、国や県の事業を活用する他、出雲市の単独事業「新出雲農業チャレンジ事業」により支援していく。

## 関係者の役割

関係者名	島根県東部農林水産振興センター 出雲事務所	島根県農業技術センター	出雲市	J A
役割	技術の指導・普及活動	技術の指導・普及活動	技術導入支援、普及活動	技術の指導・普及活動

## 事業を活用して導入した農業機械等の活用面積の目標

分類	指標	現状（R7）	目標（R12）	備考
環境	自動抑草ロボットによる取組面積（ha）	<b>0.87</b>	▶ <b>30</b>	除草剤使用量の削減技術

## 消費者理解の醸成の取組

出雲市、島根県、農家、J Aに加え米穀店、コンサルタントをオブザーバーに迎え、販売戦略部会を開催し、生産された農産物の環境へ与える効果等を消費者へ周知することで相応の付加価値を生み出し、需要の創出や再生産可能な販売単価の確保に向け、消費者理解醸成の取組を行う。具体的には、グリーンな栽培体系をPRするシールやチラシ等を作成するとともに、観光地やイベントにおいて情報発信するなど周知を図る。